

こ けんり
子どもの権利

まるっとプロジェクト

みんなで

こ かんが
子どものことを考えよう

かんがえる

しる

まもる



バックナンバーは

← こちら

世田谷区子ども・若者部保育課

第1回

第1回の今回は2つの例を紹介します。

「こういうことあるある!」「こういうこともそうなのか」と子どもの権利を考えるきっかけに繋がればと思っています。



イメージキャラクター
まるっと



ままごと遊びや人形が好き、青が好き。子どもは「好き」や「やりたい」を素直に表現します。子どもたちが自分らしい興味や好みを持つことを尊重し、ありのままの姿を大切にしていきたいですね。



「みてみて」「聞いて聞いて」ほんのひと時耳を傾け、目を合わせていくことでお子さんの“今”に気付くことがあります。自分の呼びかけに応じてもらえたというこの積み重ねが子どもの心を育んでいきます。

第3回

今回も子どもの権利についてのマンガをご紹介します。



子どもの意見や思いは言葉だけでなく態度や表情にも表れます。自分でできた!という満足感や達成感はその思いを周りの大人が理解して受け止めることで育っていきます。子どもの“今”の姿を楽しんで見守り、育んでいきたいですね。

最善の利益 意見表明

赤ちゃんは生まれた時から1人の人間として尊重されます。「おむつを替えようね」など次に関わる時の行動を言葉にして伝えていけるといいですね。小さなことですが積み重ねることで自分の存在が認められていると感じることでしよう。

最善の利益

第4回

この漫画は子どもの関わりの一つのヒントとして、その場面を描いています。この関わりがすべて正解というわけではありません。「子どもの権利」を心にとめながら読んでいただくと幸いです。



きょうだい間での場面では、どうしても年齢の高い方が『お兄ちゃん（お姉ちゃん）なんだから』と言われることが多いのではないのでしょうか。年齢の違いだけを見ることはせず、その時の気持ちを尊重することで安心して過ごせる環境を作っていききたいものです。



子どもは、言葉での表現がなくても『こうした』という気持ちや思いを持っています。日常の中で、この思いを汲み取ることは難しいかもしれませんが、仕草や表情を見ながら心の声に寄り添っていききたいですね。



第5回

この漫画は子どもの関わりの一つのヒントとして、その場面を描いています。この関わりがすべて正解というわけではありません。「子どもの権利」を心にとめながら読んでいただけると幸いです。



鼻をかむ時やおむつ替え、着替えなど子どものお世話をする時に一言、声をかけることで子どもは行動の意味や理由を理解し安心して過ごすことができます。これから寒くなり鼻かみや着替えなどの機会が増える時期です。年齢が小さくても、その存在を尊重した関わり



『男の子はやっぱり強いね』『女の子らしいね』等と言っている時はありませんか？

よかれと思って伝えている言葉が子どもの世界にとってはどうなのかな？と意識していくと気づくことがあるかもしれません。



第6回

この漫画は子どもの関わりの一つのヒントとして、その場面を描いています。この関わりがすべて正解というわけではありません。「子どもの権利」を心にとめながら読んでいただけると幸いです。



子どもは気持ちを様々な方法で表現します。大人に聞いてもらい、気持ちが落ち着くこともあれば、時には誰にも言いたくない時もあるかもしれません。

『今は言いたくない』という気持ちを理解し、受け止めることで、大人との信頼関係が作られます。そのことが、子どもの意見表明の権利を守ることに繋がります。



子どもは、保護者だけでなく、様々な人たちから見守られながら成長していきます。子どもにとって居心地の良い環境は、きっと大人にとっても同じです。

保育園やこども園はもちろんのこと、ご近所さんなど地域の方々の温かい眼差しの中で安心して過ごしていけるような環境を作っていきたいですね。



第7回

この漫画は子どもの関わりの一つのヒントとして、その場面を描いています。この関わりがすべて正解というわけではありません。「子どもの権利」を心にとめながら読んでいただけると幸いです。



子どもは成長の過程で、大人の何気ない一言を、誰かと比較されたと受け止めてしまうことがあります。そのままを受け止めてもらうことで、安心感が生まれ、自分らしく表現することができるようになります。



子どもの姿や行動を「なんでそんなことするの？」という視点から「どうして そうしたかったのかな？」と考え方を変わると声のかけ方が柔らかくなるのではないのでしょうか。言葉をかける時の柔らかさ、穏やかさは子どもに自然と伝わるようです。



第8回

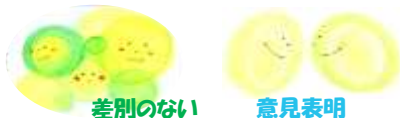
この漫画は子どもの関わりの一つのヒントとして、その場面を描いています。この関わりがすべて正解というわけではありません。「子どもの権利」を心にとめながら読んでいただけると幸いです。



まるっと



普段、自分でやりたい、自分でできるから大丈夫と自ら行うお子さんでも、気分が乗らないこともあります。その姿をどのように考え、受け止めるかで言葉のかけ方が変わります。
あなたならどのような言葉をかけますか？

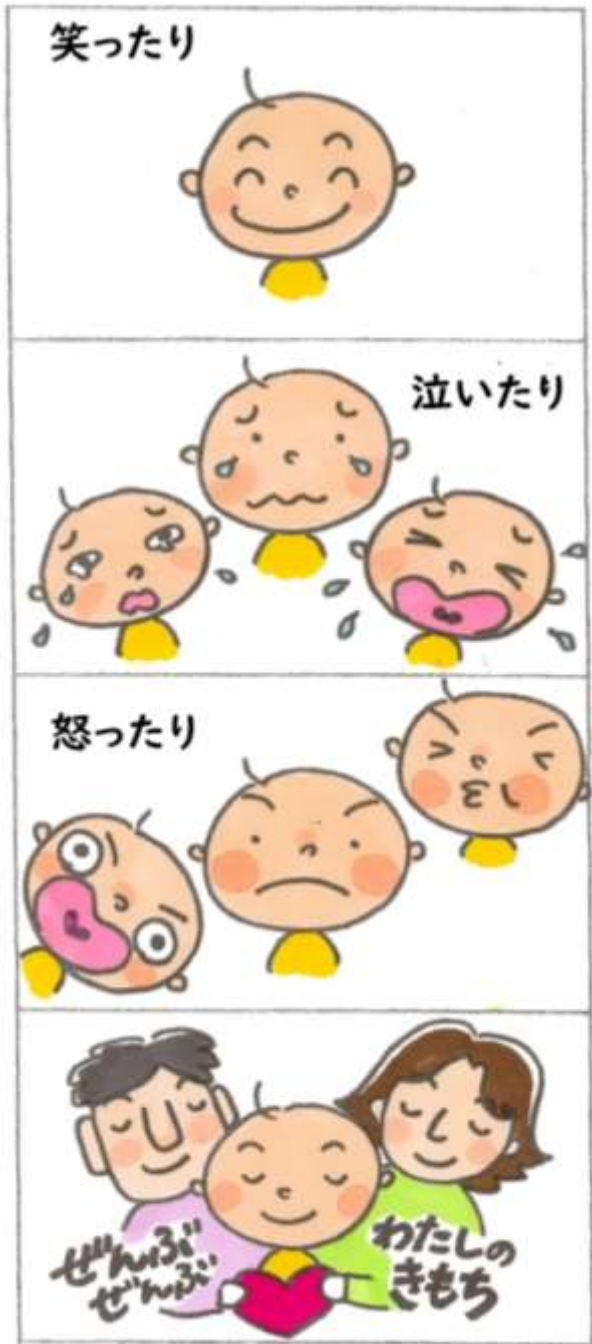


子どもは、「みんなと一緒に」、「みんなと同じ。」を選ばないこともあります。興味の持ち方は、さまざまです。
周りにいる大人は、きっかけの芽を大切にしてください。



第9回

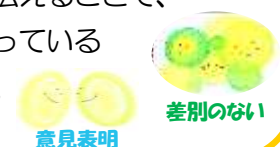
この漫画は子どもの関わりの一つのヒントとして、その場面を描いています。この関わりがすべて正解というわけではありません。「子どもの権利」を心にとめながら読んでいただくと幸いです。



子どもは、産まれた瞬間から様々な表情で思いを表現しています。時には大人を困らせるような表現をすることもあるでしょう。でも、それが子どもの『今』の気持ちです。その一瞬一瞬を子どもの「今」の姿として、温かく認めていきたいですね。



大人の何気ない言葉に対して、子どもはどう思っているのでしょうか。言葉には出さずとも、仕草や表情をよく見ていると思いが伝わってきます。気持ちを言語化し伝えることで、子どもは受け止めてもらっているという安心感を持ちます。



第10回

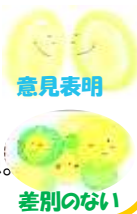
まるっとプロジェクトでは日常の場面で子どもの権利に関わることを漫画にして配信しています。『子どもの権利』を心にとめながら関わりの一つのヒントとして読んでいただくと幸いです。



まるっと



子どもは、自分の知らない世界に興味津々。自分との違いに「どうして?」と疑問をもち、ありのままを受け入れます。自分の好きが受け入れられ、もらえる嬉しい気持ちになりますね。



子どもたちの意見、発想を大切にすることで、新たな発見があります。固定概念に捉われず、子どもの世界を広げていきたいですね。



子どもの最善の利益

【子どもにとって最もよいこと】

生命・生存 および 発達に対する権利

【命を守られ成長できること】

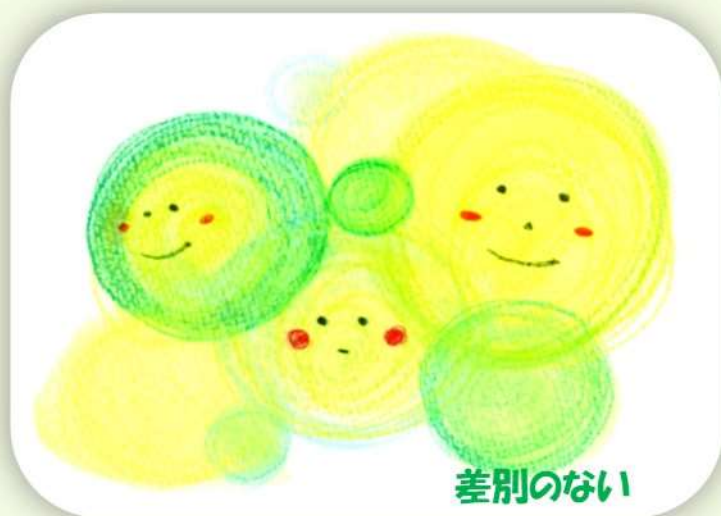


最善の利益



命と成長

子どもの権利って?? ~4つの一般原則~



差別のない



意見表明

差別の禁止

【差別のないこと】

子どもの意見尊重

【意見を表明し参加できること】

すべての子どもは周りの大人に大切に守られ、自由に遊んだり、意見を言ったり表現したりすることができます。このように、子どもが一人の人間として大切にされ成長するために必要なことを「子どもの権利」といい、すべての子どもが同じようにこの権利を持っています。